

 書評

原田誠一 編集主幹，松崎博光 編

〈外来精神科診療シリーズ〉

メンタルクリニック運営の実際

設立と経営，おもてなしの工夫

松下正明

評者はかつて，クレペリンにせよヤスパースにせよ従来の精神医学は精神病院に入院している患者を基礎に築かれてきたが，これからは外来診療を主とした精神医学が構築されるべきで，その内容は随分と変わってくるだろう，極端な言い方をすれば，疾患概念自体，あるいは疾患名も一変するのではないかと，述べたことがある。将来は，精神科医療は外来診療中心の時代となるという脈絡の中での発言であった。

このたび，本書を含めて，「外来精神科診療シリーズ，全10冊」が刊行されることになり，いよいよ時期到来かと内心喜んだものであるが，予想通り，シリーズが刊行されてまだ半ばではあるが，すでにしてメンタルクリニックを中核とした精神科外来診療の時代の出現を予感させる出来栄である。

編集主幹の原田誠一さんが「刊行にあたって」で，この企画は，「精神科クリニックでの実践を通じて集積されてきた膨大な〈臨床の知〉を集大成して，世に問うこと」，「現場に根差した〈臨床の知〉をひっくり返して示し，現在の正統的な精神医学～精神医療に対する自分たちなりの意見表明や提言をすること」にあると述べられていることも，精神科外来診療での〈臨床の知〉が，これからの精神医学の革新につながることを心ひそかに断言した自負に違いない。

本シリーズは，メンタルクリニックにおける精神科外来診療にみる新しい臨床の知から，診

断の薬物療法，身体療法，精神療法，あるいは東日本大震災における精神科外来診療やギャンブル依存症などに至るまで，その関心の広さは大きい，とりわけ今回書評の対象とする本書はメンタルクリニックの運営の実際についての知と技の詳細を示して尽きない。

本書は，計23の論考と28のコラムからなり，「クリニック開業の条件を考えてみよう」「クリニックの外的構造」「クリニック診療の内的構造」「クリニックと地域医療」「クリニックのリスク管理，安全の確保」「クリニックの経営」「クリニック開業医が担うもの—診療・経営以外のあれこれ」などといったタイトルを持つ10の章に分けられている。表題の目新しさに惹かれて本文を読み，またその内容のユニークさに一驚してしまう。

日本での精神科関連の全集では初めての試みと思われる本シリーズは，すでに開業しているメンタルクリニックにとってはおそらく座右の書であり，これからクリニックを開きたいと願っている医師たち，あるいは精神科外来自体に関心を持つ医師たちにとっては必読の書となるに違いない。

(東京大学名誉教授)

●B5 352頁 2015年11月

定価：本体8,000円＋税 中山書店刊